

平成29年10月

秋田大学附属図書館 アクションプラン202X

～ 図書館をさらなる知の集合体へ～
サイエンスコモンズをめざして

国立大学図書館協会ビジョン2020 とは

平成28年6月、国立大学図書館協会総会において、新たな国立大学図書館のあり方の提言「**国立大学図書館協会ビジョン2020**」が了承された。

本ビジョンでは基本理念を「大学図書館は、今日の社会における知識基盤として、記録媒体の如何を問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にし、それらを活用し、新たな知識、情報、データの生産を促す環境を提供することによって、大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献する」とし、以下3つの重点領域とそれぞれの戦略的な目標が掲げられている。

●**重点領域1：知の共有<蔵書>を超えた知識や情報共有**

- 目 標
- ・教育研究の成果の発信、オープン化と保存
 - ・出版された資料の整備と利用
 - ・知識や情報の発見可能性の向上

●**重点領域2：知の創出：新たな知を紡ぐ<場>の提供**

- 目 標
- ・知を創出する場の拡大・整備・提供
 - ・社会に開かれた知の創出・共有空間の提供

●**重点領域3：新しい人材：知の共有・創出のための<人材>の構築**

- 目 標
- ・新たな人材の参画
 - ・国立大学図書館職員の資質向上

今後、秋田大学附属図書館は、これら3つの重点領域における各目標を達成するため「**秋田大学附属図書館アクションプラン202 X**」を策定し、2020年を通過点として推進する。

秋田大学の 国立大学図書館協会ビジョン2020 重点領域 推進に向けた取り組み

重点領域推進に向けて ～ 図書館をさらなる知の集合体へ～

<教育・研究の場：サイエンスコモンズをめざして>

秋田大学附属図書館では各重点領域を下記とおりに取り組む

- 重点領域1：知の共有<蔵書>を超えた知識や情報共有
 - ①図書館情報システムの安定運用並びに、電子書籍の推進及び電子ジャーナルの充実
 - ②定期的な全館蔵書点検等、サービス向上をめざした業務内容の制度化
 - ③機能強化等推進事業
 - ・デジタルギャラリーの充実
 - ・貴重図書「北方教育資料等」の今後のあり方

- 重点領域2：知の創出：新たな知を紡ぐ<場>の提供
 - ①アクティブラーニングの推進事業
 - ・ICT機器の充実（授業支援システムの強化等）
 - ・館内環境整備（利便性の向上・セキュリティの確保）
 - ②旧型機器（図書自動貸出機等）の更新及び、新たな図書関連システム（機器）の導入
 - ③図書館増築事業（未来型教育空間の実現）＊概算要求の取り組み（メディアパーク棟：仮称）

- 重点領域3：新しい人材：知の共有・創出のための<人材>の構築
 - ①図書館職員専門化への取り組み（キャリア形成）：データライブラリアンの育成
 - ②図書館利用者向け講習会の充実
 - ③人的支援活動
 - ・パスファインダー作成や講義集録システム活用等による教員との連携
 - ・その他新事業の企画・展開

秋田大学附属図書館基本理念とアクションプラン202X

<秋田大学附属図書館 アクションプラン202X>

Our Plan to fulfill the Vision of Akita University Library 202X

知の共有
…蔵書を超えた知識や情報の共有

知識や情報の
発見可能性の
向上

出版された資料
の整備と利用

教育研究成果の
発信、オープン化
と保存

Share the assets of a Library

知の創出
…新たな知を紡ぐ場の提供

サイエンス
commons

社会に開かれた
知の創出・
共有空間の提供

場の拡大・整備
・提供

To provide a place for cultural exchange

新しい人材
…知の共有・創出のための人材の構築

データライブラ
リアン
(URA.IR連携)

図書館職員の
資質向上

新たな人材の
参画

Human resources development

応用期

発展期

基礎期

大学図書館の基本理念を推進するアクションプラン

秋田大学附属図書館基本理念 (2005.8.3)

1. 高度な学術情報の収集と公開体制を確立し、学習・教育・研究活動を幅広く支援する。
2. 学習者・教育者・研究者及び市民の情報収集を支援し、学術研究交流の振興に寄与する。
3. 学術情報発信拠点として大学の知的財産を社会に還元し、学術文化の発展に貢献する。

秋田大学附属図書館の運営課題と今後の活動視点

2020年におけるアクションプラン通過点評価と再スケジュール



■知の共有

見直し → コモンズスタイルから
電子リソースの提供へ

コロナ禍により集会型学習機会の提供は難しい状況が続くと考えられ、物理的な場「コモンズ」の提供から電子リソースの提供にシフトする

【実施プラン】

電子ブック・電子ジャーナル・データベース・デジタルギャラリーを充実するとともに、学外からのアクセス環境を増強する。情報探索ガイドブックWeb版の作成、オープンアクセスへの協力。

■知の創出

見直し → 対面からリモートサービスへ
～学び合うリモート環境に～

対面によるサービスが難しくなった図書館利用案内や検索案内は、図書館サービス情報のリソースを電子で提供し公開する

【実施プラン】

図書館利用案内動画の公開、文献検索講習会のリモート開催、図書館HPマイライブラリーのプラットフォーム化による初年次教育関連リソースの電子提供、図書館利用教育のための教材作成支援。

■新しい人材

見直し → 学修支援人材の養成
～電子リソースの活用支援～

電子コンテンツの比重増に対応し、情報リテラシー教育を基軸にリモート学修への活用スキルを高めた若手人材を養成するため、組織体制の整備や人材交流を検討する

【実施プラン】

各種研修への参加促進と研修報告発表による習得スキルの組織蓄積、アカデミックスキルを一層高めた若手職員の人材育成のため組織体制を整備、他館との人材交流も検討。

◆医学図書館に関する課題認識と将来視点

医学部の学生は国家試験合格という明確な目標があるため、医学図書館として、学生および教員に対し国家試験合格に向けた支援の取り組みを行う。

実施プラン

○個人学修支援

・滞在型学修機能の充実、電子動画の利用検討

○教員と連携した教育研究支援

・作成コンテンツとWebClassの連携、論文投稿支援